

大地震関係ニュース（青森民医連）34



2011.4.20 11:15

青森民医連 事務局

地震・津波発生後の皆さんのご奮闘に敬意を表します。

県連内の状況を取り急ぎお知らせ致します。

全国の状況は、全日本からのニュースをご参照下さい。

募金額 1,985,471 円

健生 C・五所川原・黒石より追加！

大船渡支援報告

2011.4.10～14

文・写真：宮沢 守 県連事務局次長

大船渡駅周辺 根こそぎ流されたと思われる家屋

県連第6支援隊（國吉保孝Dr、鈴木諭Ns、宮沢守県連次長、医学生の山端祐貴さん）の大船渡市での主な任務は以下の2つでした。

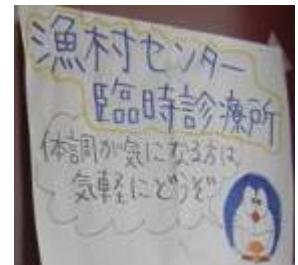
- ① 地域のお宅を訪問して健康チェックや対話をし、医療・介護・行政につなげる必要があるかの判断をする
- ② 公民館での臨時診療や往診

目の当たりにした困難事例

● 左片マヒで起き上がれなかった・・・青森隊の思いやりに感謝

避難所で座布団に寝ており、一人で起きあがれない高齢女性。夜間は戸を開けると冷たい風が入るので、他の人に迷惑をかけないよう、トイレに行くのを我慢し、体調を崩していた。行政にベッドの手配を依頼するも「制度上困難」との冷たい対応。

そこで青森の支援チームが協議してカンパを出し合い、**地元のホームセンターでベッドを購入し寄贈した。**他の避難者に「不公平」と受け取られないよう、民生委員や避難所の皆さん一人ひとりに事情を説明してご理解いただいた。



これで安心してトイレに行ける。ありがとう

● 障害者手帳が津波に・・・

薪ストーブの煙が出ている小屋を見つけ訪問。ご夫婦で避難していた。悩みは介護が必要な家族の「障害者手帳」が津波で流されたこと。市に再発行を申請したが、混乱のため対応されていない。支援チームのミーティングで行政に再発行をはたらきかけることになった。



支援者全員でのミーティング

● やっと赤ちゃんを沐浴させられた

数人のお子さんをかかえ避難所にいた女性。乳児がいるが世話をできず、國吉 Dr. の診察を受けることになった。久しぶりに沐浴も行った。母と乳児が入浴する間、残る兄弟を誰かが面倒を見る関係（子育て組）を作りたい。



足浴のようすを見守る國吉Dr

● 介護保険申請中だったのに

泥だらけの家の中で、息子に介護されていた高齢女性。介護保険申請中で、ケアマネが決まらないうちに被災した。足浴を行い、介護保険状況の把握と入浴の手配を検討した。

● 希死念慮を抱く女性

阪神大震災でも被災し、今回も被災したため「災いを連れてきた」「死にたい」と漏らしていた。北海道南西沖地震で被災した民医連 Ns が一緒に泣きながら体験や感情を共有した。メンタルケアは沖縄・心のケアチームに引継いだ。

必要なところに人・物の支援が行き届いていない

- ① 避難所での食事はボランティアが作ったおにぎり 3 個と市が配給するパン 1 個のみ。
⇒ 市会議員を通じて「災害救援法の食事（1 日 1,010 円以内）を大きく下回っている」と大船渡市に申し入れるうごきがあった。
- ② くみとり式トイレの避難所では、タンクが満杯にならないよう使用した紙はごみ袋に入っていた。とても不衛生な状態。 ⇒ 同上。市職員が実態を把握していなかった。
- ③ 日常の小物類（ヘアゴム、エコバッグ、小物入れ、爪切り）が必要 ⇒ 義捐金活用を。

写真 避難者の「何もすることがなくて気が狂いそうだ」との声をうけ、民医連チームと避難者が寄せ書きをつくり、被害が大きい陸前高田市に贈りました。

支援者は二重マスクで防塵対策を。支援者同士の食事の片付けなど、積極的に協力しましょう。食材は地元スーパーを利用するなど、地域経済に貢献する工夫をしましょう。

